

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：経営学部 名前：池田 賢司 作成日：2026年1月27日

1. 教育の責任

データ分析の設計から分析結果の解釈までを適切に行うことのできる人材を育成する。担当科目は「キャリアデザインⅠ,Ⅱ」「ビジネスの数字を読む」「データの分析と活用Ⅰ,Ⅱ」「データサイエンスⅠ,Ⅱ」「ビジネス情報処理Ⅱ」「フィールドスタディⅠ」「ゼミナールⅠ,Ⅱ」「経営学の扉/企業経営を考える(オムニバス授業)」であった。

2. 教育の理念

自分の経験に基づく判断ではなく、データに基づいた判断ができるよう、データの扱い方や解釈の仕方について理解できる指導している。また、データ分析といった場合、統計学のイメージを持つ学生も多いが、統計学を適用する前段階(データ分析の設計)の重要性について理解できるよう指導している。

3. 教育の方法

授業内では簡単な問題を出題し、数字の持つ有効性やその背景に潜む罠について学生自身に考えさせることで、より深い理解につながるよう工夫した。さらに、データを扱うという不慣れな作業を行うため、可能な限り授業ペースを緩め、学生が理解できていないまま置いて行かれないよう配慮しながら授業を実施した。また、演習やグループワークの際には教室内を巡回し、学生のフォローを行うことで、学生のスキル習得や理解のサポートに気を配った。授業資料については、教科書がある場合は内容を分かりやすく整理したり、教科書がない場合は Excel 等の操作方法を含めた資料を配布したりするなど、学生の理解の助けになるよう努めた。また、授業資料は授業日の前日までに配布し、学生が予習に活用できるようにした。

4. 教育の成果

授業アンケートの自由記述には、数字の正しい見方や注意点について学ぶことができたという意見や、データ分析が面白く、授業内容に満足しているという肯定的な意見が見られた。一方で、課題が難しいと感じる学生もいたが、授業スピードに配慮したことで、多くの学生が授業についていくことができていた。

5. 改善への努力と今後の目標

データに対する扱いや考え方が不慣れな点が多いため、課題を難しくなったものと考えられる。授業内容を調整し、課題に取り組むまでの事前学習をより充実させる。

【添付資料】